

自己評価と学校関係者評価報告

令和6年7月31日
学) 町田きそ学園 境川幼稚園

1. 本園の教育目標

- じょうぶなからだ
- やさしいこころ
- よくかんがえるこども

2. ①令和5年度重点的に取り組んだ目標、計画 ②本年度重点的に取り組む目標・計画

- 特別支援教育充実を図る
- 保育内容の見直し、精選
- ICT導入とSNS等活用



- 特別支援教育のさらなる充実
- コミュニケーションの深まり、意識化
- ICT導入とSNS等の活用と子育て支援施設の役割

課題	具体的な取り組み・方法	評価
1 特別支援教育の充実	訪問支援、療育先との連絡、連携が十分できた。 支援が必要な子が増えてきているが、職員室の先生、補助の先生皆で園児を見ていくという体制がとても良かった。 支援を受ける園児がどのような支援をつけてもらうのかわからなかった。年々、支援が必要な子が増えている現状、研修、研究等、勉強をもっとするべきだった。特別支援の方法は経験の多い先生方から教わった。全体の保育の中で見ていくことが難しい子の対応について考えさせられた。子どもに寄り添い、一人一人を大切にすることの意味、学級や学年、園という単位でともに生活していく意味を指導者が意識したい。	C
2 コミュニケーション能力を高めていく	今年度、新しい先生を4名迎え、今まで何の疑問も持たなかった仕事や取り組みに対して多様な見方ができるようになった。前任園での経験を話してもらい参考になった。この機会に多くの職員が積極的に自分の意見を述べたり、相手の考えを聞いたり、職員間でまずコミュニケーションを深めていきたい。そして、それが保護者や園児とも質の高いかわりができるようになることが最終目標である。	C
ICT導入とSNS等の活用と子育て支援の役割	3学期は要録の記入が楽になり、ICTを活用できていると感じた。保護者も職員もタッチビューの使用に慣れてきたように感じる。活用の幅が広がった。今まで使用されていなかった昨日も積極的に先生方自ら利用している。園だよりや歌詞等ICT化できればもっと便利で働きやすくなると思う。SNSの活用により、園内の様子や発信を多くの方に見てもらい、足を運んでくれていると感じる。インスタは高評価。保護者が見て「楽しみにしている」との声があった。子育て支援施設としての認知度も上がっている。今年度、各教室にWIFIを設置した事で仕事の効率化、園児の記録のとり方等で保育の質の向上を果たしている。	B

(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

3. 総合的な評価結果

評価	理由
C	全教職員で重点目標を決めて取り組むことは、日々、共通な話題として取り上げることができ、視点が明確になり振り返りやすい。教育・保育について意見を交わすことはもちろんだが、一つの目標に向けて皆で取り組むことの重要性を改めて痛感している。世代間交流を図ることができ、コミュニケーションも高めていくことができる。各教室へのWIFI設置は園児の出席欠席確認と記録確認等で大変有効であったと考えられる。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 令和6年度 取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	特別支援教育の充実	昨年度からの反省を受けて、まだ取り組まなければならない課題も残っている。引き続き、職員全体で特別支援教育について理解を深め、子どもたち一人一人の心に寄り添う保育に努めていきたい。町田市発達センターとの連携を深め、研修会や研究会への参加機会を増やす。また専門の講師の助言、アドバイスの機会を設定し、個別支援シート作成等のサポートをいただく。
2	コミュニケーション能力の深まり	今年度、新しい先生方を迎え、今まで何の疑問もなかった仕事や取り組みに多様な見方ができるようになった。この機会に自分の意見を述べたり、相手の考えを聞いたり、職員間でまずコミュニケーションを深めていきたい。そして、それが保護者や園児とも質の高いかわりができるようになっていくことが目標である。
3	ICT 導入 SNS 等の活用と子育て支援への役割	昨年度から引き続いての課題であるが、意味合いとしては「境川稚園は子育て支援施設」であり、「地域に根差した施設である」ということにつないでいきたい。

5. 学校関係者評価委員会の評価

○特別支援教育：職員間で共通理解を図り、一人一人が大切にされる存在となる。

「この一年間、特別支援教育ではとても苦労されていたようだ。様々な環境下で育てられてきた子供達一堂に会し、入園し、一つの学級を形成している。幼児期は一人一人が個性や持ち味を生かしながら成長して行ってほしいと願っている。しかし、そんな中でその成長過程から考えて誰もが特別な支援を必要としている時期と考えても良いのではないか。それと合わせて「皆で協力し目標に向けて取り組むことも日々学んで行ってほしい。」

専門の講師からの助言やアドバイスをいただける機会は大変重要である。勉強になる。訪問支援は是非とも継続していききたいところだ。

園は幼小接続で、進学を見通した年間計画を作成したり、交流会に参加したり、進学に柔軟に対応できるよう努力されている。年長組からの小学校進学時に就学支援シート作成で児童理解も図れる。個別支援シートの作成は園内で一人一人の成長を計画的に見取っていくことができるので是非、作成したい。毎年の課題でもある。」

園長先生、副園長先生が小学校教諭であったこともあり、小学校との連携、接続は園の特徴であると考えても良い。

○ICT 導入 SNS 等の活用と子育て支援施設としての周知。

新しくInstagramをはじめ、多くの方々から「境川幼稚園は認定こども園移行後も、これまでと同様に地域に根差し信頼される施設として、認められていると感じる。子育て世帯への園庭開放や子育て相談、子育て講座等は、より幅広くアナウンスされるための手立ては必要だと感じる。そのため的手段として SNS 等の活用を今後も継続して行ってほしい。

○コミュニケーション能力の高まり

2024 年度、新しい先生方を多数迎えられたこと、嬉しく思う。新しい風を取り入れ、園がまた新しい一歩を踏み出し多様な見方ができるようになった。今までの活動や取り組みに対して何の疑問ももたずに「例年通り」という考え方から、この機会に自分の意見を述べたり、相手の考えを聞いたり、職員間でまずコミュニケーションを深めていくことができるであろう。そして、それが保護者や園児とも質の高いかわりができるようになることが願いである。

6. 実績報告

各教室に WIF 機器を設置した事により、子どもたちの日々の様子をドキュメンテーション臺にまとめ、SNS 上で発信することができた。そのことにより保育者は自身の保育活動を振り返り、質の向上に努めることができた。また、保護者や地域の方々には園の活動や取り組みを知ってもらい、幼児教育への関心を高めることができた。

